

分野別方針1 環境

～DO YOU KYOTO?を合言葉に、

「環境と共生するまち・京都」を目指す～



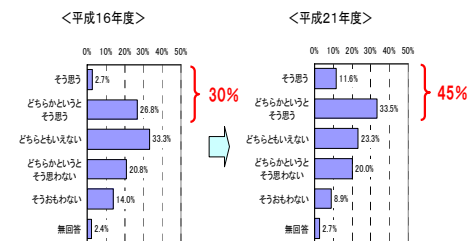
基本方針

豊かな森林資源、伝統文化、進取の精神と創造の力など、京都のまちの特性をさらに高め、京都のまちが持つ「市民力」や「地域力」を総結集し、世界をリードする「環境と共生するまち・京都」の実現を目指す。

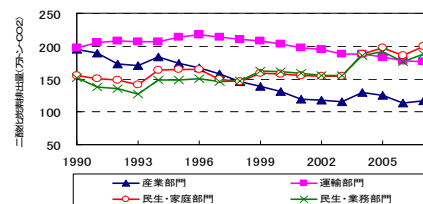
現状・課題

- 京都議定書誕生の地であり、環境モデル都市でもある京都市は、低炭素社会、循環型社会の構築に向け、全国を牽引するトップランナーとしての役割が求められている。
- 三方の山々や清らかな川の流れなど、優れた自然環境が保たれているが、一方で、都市化の進展や産業構造の変化などに伴い、管理不十分な植林地や里地・里山の荒廃が生じ、気候変動や開発などにより、種の減少や生態系の変化が見られる。
- 温室効果ガス排出量が増加傾向にある家庭部門、業務部門を中心とした対策など、将来に向けた温室効果ガスの大幅な削減を目指している。このため、「歩くまち・京都」、「木の文化を大切にするまち・京都」の実現、「環境にやさしいライフスタイルへの転換」、さらには、産学連携によるイノベーションの推進、ごみの減量などを進める必要がある。
- 循環型社会、低炭素社会を実現するための最大の環境対策は、ごみの減量を実施していくことである。ごみ量は着実に減っているが、更なるごみの減量を目指しており、そのためには、京都で暮らす、京都で働く、京都で学ぶ、そして、京都に集う皆さんの力を結集することが不可欠である。

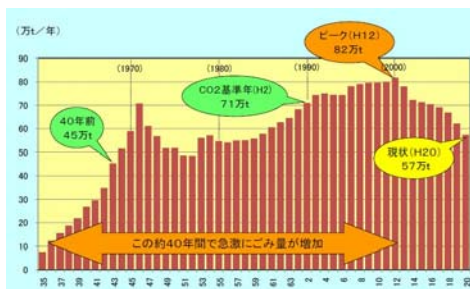
◆「きれいな空気、清らかな川、静かなまち」など、よい環境が保たれていると思う人が増加



◆二酸化炭素排出量は家庭部門、業務部門が増加傾向



◆近年京都市のごみ量（市受入量）は減少傾向



政策の目標

<みんなで目指す10年後の姿>

- 三方を山に囲まれ、その中を鴨川や桂川が貫流する山紫水明の恵まれた京都の自然と都市景観が子どもたちに引き継がれ、子どもたちがそうした自然環境を身近でかけがえないものと実感できるようになっている。
- 人と自然の共生の中で、環境への負荷を抑制することで、環境汚染、環境破壊の防止につながるとともに、多様な生物が息づく良好な自然環境が保全されるなど、健全で恵み豊かな環境が保たれている。
- 車優先から公共交通優先への交通政策の転換、京都のまちの特性を活かしつつ、景観とも調和した省エネ型建築物など「低炭素型まちづくり」が進んでいる。
- 豊富で高度な知的資源を活用した環境技術のイノベーションが進展し、太陽光や小水力、バイオマス（生物由来の資源）などの再生可能エネルギー資源の活用が進んでいる。
- 地産地消の食文化、季節感を大切にする生活、「打ち水」「しまつの心」「門掃き」など伝統的な知恵を生かした新しい「京都流ライフスタイル」が広がり、環境にやさしい行動を進んで実践する市民や事業者が増えている。
- 生活のあらゆる場面で、しまつの心を大切にしたごみを出さない2R（発生抑制、再使用）の考え方を重視した暮らしを実践し、事業活動においてもごみを出さないものづくりが広がり、すぐにごみになるものを「買わない・つくらない」という行動に支えられた環境にやさしいまちづくりが進んでいる。
- また、ごみの減量に取り組んでも、なお、出てくるごみについては、「身近に・気軽に」出せる」資源回収環境が整っており、着実にリサイクルが進んでいる。

<政策指標>

指標	現況値	目標値
1 温室効果ガス削減率(1990年比)	▲6.0% (H19)	一※
2 ごみの本市受入量	57万トン (H20)	39万トン

※目標値は、現在環境審議会で検討中

市民と行政の役割分担と共汗

